

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700365		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム十勝の社 1F		
所在地	中川郡幕別町札内豊町39番地の3		
自己評価作成日	平成28年1月10日	評価結果市町村受理日	平成28年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kanite=true&JigrosyoCd=0194700365-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中に位置し、周囲には公園やスーパーがあり利用者様の散歩や買い物などの活動を行いやすい環境にあります。
小規模な生活の場として、集団ではなく個別の関わりを多く持てるように配慮しケアに取り組んでいます。
安心で心豊かな生活を提供する目的に、健康維持に欠かせない食事については、栄養バランス・季節感・個人の嗜好に配慮し提供しています。
行事や外食の際は、利用者様の希望を聞きながら企画しています。
協力医療機関による定期的な訪問看護と往診を受け、状態の変化にも適切な助言と診療で出来る限りホームでの暮らしを継続して頂ける様に支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ふれあいの里グループホーム十勝の社は、幹線道路に面した住宅地の中に位置し、向いには公園、利用者の徒歩圏内にスーパーマーケットがあり利便性に富んだ地域に立地している。スーパーマーケットへは散歩がてら買い物に出向き利用者の楽しみの一つとなっている。「よこびの輪が私たちのしごとです」と言う開設時からの法人理念に加え「その人らしい生活を支援します」「明るく楽しい生活を支援します」「家族や地域との連携を深めます」の独自の施設理念を作成し日々の介護支援の指針として実践に努めると共に、更に具体的に毎月ユニット毎に目標を設定して方向性を定め、利用者のその人らしい暮らしの実現に向け、職員一人ひとりが自分の役割を意識しながら取り組んでいる。地域との協力関係も地道に取り組みボランティアの受入れや、地域の介護相談員との関わりから災害時の協力関係を築いている。職員教育は法人主体で帯広地区三事業所合同で、目的別、介護経験別に実施し、職員のスキルアップを図っている。管理者、職員はお互いの提案を利用者にとって良い事は行ってみようと前向きに検討しており、より利用者の希望に沿った暮らしの実現に繋げている。事業所内は、落ち着きがあり、明るく和やかな雰囲気となっており、温・湿度の調節等、居住環境に配慮し、居心地のよい空間を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える場所(各フロア)に掲示しており、きめ細かなケアをする様に心がけているが、職員で差が生じている時もある。方向性に迷う時は再度確認しながら取り組んでいる。	法人理念、事業所理念を事務所、玄関等に掲示し、管理者、職員は理念を共有している。また、理念を基に毎月会議で具体的に目標を設定し、検証を行い実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内での清掃にも積極的に参加している。事業所の避難訓練時は近隣の方にも参加を募り、事業所への理解も得る様に努めている。幕別町の介護相談員やボランティア、高校実習生の受入れも行なっている。	町内会に加入し清掃活動を行ったり、敬老の日には町内会役員がプレゼントを持って訪問し交流している。町には介護相談員がおり利用者の話を傾聴し馴染みの関係に成るよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告で認知症の症状についても説明しながら伝えている。入居申し込みや見学の際も相談内容によっては他の居宅サービスも紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ホームの状況報告や情報交換の場を設け、質問・要望を確認している。	運営推進会議は、概ね2か月毎に利用者家族、町内会役員、民生委員、町担当者の出席を得て利用状況、活動報告等を行い、質問、意見を得てサービス向上に活かしている。家族には全員に開催案内を出し、議事録は郵送し情報共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険事業所として必要な報告と相談の他に、日頃から相談、報告等を行ない協力関係を築いている。	町担当者には運営推進会議へ出席を得て指導や助言を得ている。また、事故報告や法改正の説明会に出席し積極的に情報を得て協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っていない。利用者が自由に動ける環境にあり、見守りを中心に実践している。外部への研修参加や内部研修を実施し可能な限り現状維持していきたいと考えている。夜間帯は1人体制で勤務している為、出入口の施錠は行っていない。	身体拘束や虐待防止に関する研修を年2回以上取り組むよう母体法人からの指導があり、管理者、職員は外部、内部研修に取り組み、身体拘束が及ぼす弊害や指定基準における禁止対象の具体的な行為を正しく認識している。また、内部監査も活用しながら、適切な対応になるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修などに参加して、注意を払い防止に努めている。身体のみならず、言葉かけにも配慮しながら振り返る時間を設ける様に努めている。		

ふれあいの里 グループホーム十勝の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記制度利用の方については、係るべき部分で支援している。職員の中には、制度の理解に乏しい者もあり、今後も研修等で学ぶ機会を設け活用しながら支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込みの時点で不安や誤解のない説明を心掛け、書面と口頭で説明を行っている。入居後も同様に、確認し不安のないように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で質疑応答の時間を設けたり、面会時に状況報告し意見等何でも言って貰える関係づくりを心掛けている。意見・要望・苦情等は記録を作成しミーティング時に職員で確認している。	利用者家族には、利用者の日常の様子を1~2か月毎にお便りでお知らせし、面会時の会話の中で意見や要望を把握するよう努めている。また、利用者とは日常の会話の中で話を聞き、要望があれば職員で情報共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアミーティングや、個人面談等で意見要望を聞き取っている。	管理者は、毎月のフロアミーティングや個人面談で職員の意見や要望・不満を把握し、解決や意見の反映に役立てている。研修は毎月行われ、目的別、介護経験別を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H27年12月より社員制度の再改正があり、面談し就業条件の確認後正職員に移行。十勝管内の3事業所のGHで兼務する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての職員教育制度により、役職者研修や段階別研修、目的別研修を実施している。その他勉強会を事業所で開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催の研修に可能な限り参加し、他GHとの交流の機会を設ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人と面談し、生活歴や現状で困難な事を聞き取り、作成された情報提供書を基に、安心と信頼して生活できる関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に、本人の意向と併せて家族からの要望にも耳を傾け、信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後の生活で予想される生活状況の変化や、事故についてはどの時点で連絡するかを確認し、介護計画に記載されている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の意向を確認しながら食器拭きや洗濯干し、体操等を職員と共に取り組んでいる。中には、介護度が重くなり介護される一方であるのも現状である。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への連絡や通院介助は管理者や計画作成者が行っている。体調不良時には家族の同行も可能か確認し、共に把握が出来る様にしている。来訪時など最近の状況を伝え、家族との信頼関係を築ける様に努めているが苦手な職員や管理者や計画作成者任せの職員もいる。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みのある写真等を置いたり、馴染みの場所へ行きたいと希望がある際は、家族と協力し本人の思いが途切れない様に支援している。	馴染みの美容室を希望する時は、家族に協力をお願いしている。友人、知人が訪ねて来たり、音楽を聴いたり、編み物や日記を書いたり、利用者のこれまでの関わりや習慣を大切に支援助に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の生活パターンに合わせて、孤立せず趣味の活動に楽しく過ごせる様に取り組んでいる。利用者同士の相性を考慮した席の配置となっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時に他施設の申込みを確認し、退去に繋がる事由があった場合には、家族と話し合い、本人や家族が納得できる方向性を示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からケアプラン更新時期や来訪時に暮らしの希望を伺い把握し、個々にできる事は違う為困難な場合も含めて本人本位に検討し希望に添える様に努めている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望は、本人や家族から契約時や日常の会話、様子で把握し、利用者からの訴えに耳を傾け、職員で思いを共有し、寄り添う介護支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族や関係施設から情報を頂き、その人らしさを把握する様に努めている。生活において発見した事は活かせる様に情報の記録を残し定期的に関覧し検討するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の興味・関心事を定期的に職員で検討し、本人の意思を確認しながら支援に努めている。出勤時に業務日誌の確認や口頭で連絡し職員間で情報を共有できる様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々に合ったケアが出来る様に定期的にモニタリングを行ない、ミーティングで意見やアイデアを出し合いケアの内容を検討している。また家族と情報交換し意向を踏まえてプランの作成を行なっている。	利用者、家族の意向を確認しながら毎月のカンファレンスでケース検討を行い、現状に即した介護計画を作成している。介護記録作成時のポイントをミーティング時に管理者が説明し、役立てている。また、毎日の介護記録で介護計画実施の確認を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやミーティング、日々の記録で入居者の変化等を確認している。ケアプランの更新時期や必要時に本人・家族に提案している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が希望する場合には、協力医療機関にとどまらず、適切な医療を受ける支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での生活継続の為に、家族の協力を得ながら、本人にとって必要な事は継続している。家族の協力のもと定期的に町の図書館を利用している入居者もいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関での受診だが、馴染みのかかりつけ医がある場合には適切な医療が受けられる様その限りでなく、往診医との連携が出来る様に支援している。	毎月、往診を基本として協力医療機関の定期受診を受けている。従来からのかかりつけ医を希望する利用者には、家族対応で受診をお願いしているが、状況によっては事業所でも対応している。情報提供表で状況を報告し、適切な医療を受けられる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護では、前日までに報告書を送付している。日常の記録を医療の視点から相談し助言を受けて、本人の生活に合わせて実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームへの復帰がスムーズに出来る様に、定期的に面会し入院中の体調の把握にも努めている。本人や家族の希望とホームでの方針を医療機関に伝え、情報を共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に係る指針を説明。入院や治療が必要になった時点でも、今後の方向性について話し合う時間を作っている。可能な限り、担当医師からの説明に同席している。	利用契約時に、「指針」で利用者家族、医療機関、事業所の連携体制が整えば取り組む方向にある事を説明し、理解と同意を得ている。最終的な看取り介護についてはこれからの取り組みであり、管理者が指導を行い適切な介護が出来るよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命救急講習を職員で受講するように努めている。また事業所でマニュアルを作成し、目につく所へ配置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練実施。日中や夜間を想定した訓練を行なっている。家族の他に町内会や地域の方々にも参加を募り、ホーム利用者の方々の動きや対応を感じ取ってもらえる様努めている。災害時に備え、備蓄品を整備。	年2回、6月、1月に消防署の指導の下、日中、夜間各想定火災避難訓練を実施している。地域住民には開催案内を配布して参加を要請している。ボランティア、町の介護支援相談員も参加協力を得ている。お米、水等備蓄の用意にも取り組んでいる。	火災の避難訓練、備蓄と対策を行っているが、地震対策等その他の災害対策、避難場所確認、地域の役割伝達等更なる体制構築を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として優しく丁寧な言葉使いをするように心掛けているが、口調が雑になる場合もあり職員間で気を付けたり、ミーティングに再確認している。又入浴や排泄時も配慮ある対応を心がけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを傷つけない言葉遣い出来るよう新人研修で教育し、その後は日常的に再確認している。毎日の介護の中で特に羞恥心がおきやすい排泄や入浴時には特にプライバシーを損ねない様取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に声掛けや確認してからケアに当たる様に努めている。自己表現が困難な方には気持ちが察せる様にコミュニケーションを取り、理解できる様に努めている。可能な範囲で選ぶ機会を提供できる様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険が無ければ本人の意向に沿った生活を送れる様に支援している。レクやゲーム・テレビ鑑賞・体操・散歩など希望を聞きながら行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の髪のかぶり・目ヤニ・口腔内や衣服の汚れ等確認している。2ヶ月に1回は訪問美容の利用もしている。		

ふれあいの里 グループホーム十勝の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の希望や出来る事を把握し、家事の手伝いを一緒にしている。食事の盛り付けに気を付け、行事等は盛り付けや飾りつけも一緒に行っている。年1回給食会議があり、好みや食べにくい物等を報告し献立に反映している。	献立は本社の栄養士により1か月単位で用意され、食材も配送されるシステムになっている。利用者の好みは給食会議で把握されている他、外食、誕生日等の行事食で反映されてる。調理は担当職員もいるが、基本的には職員全員で担当している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立を基に調理している。食事や水分量を記録し必要量が摂取出来る様取り組んでいる。体調不良時や食事量低下がある時は飲用しやすい物で体力回復を図れるように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人に合わせた口腔ケアを行なっている。仕上げに職員が磨き残しの確認を行ない、口腔内に異変があった場合は家族に確認後歯科往診を受けている。年に1回集団歯科検診を利用し助言を得ている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の体力に合わせた排泄パターンや水分摂取量を把握しトイレでの排泄が続けられ、失禁軽減を目指し清潔保持や誘導に努めている。	利用者全員の排泄記録をとり、パターンを把握し時間誘導したり、表情や様子を見て声かけを行っている。トイレには背もたれが付いており、楽な姿勢で排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の間隔と形状を把握すると共に、その人の活動量や水分食事量の把握をしている。個々に合わせて腹部マッサージや乳酸菌飲料を毎日摂取し日常的に便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に合わせて日中帯で入浴している。体調不良時や外出等で入浴の順番を翌日に変更する事もある。二人介助が常時必要な方の入浴に関しては安全面を考慮し、勤務の人数が多い日に入浴している。	週2回の入浴を基本としている。毎日湯を入れ、空いた日数や外出予定、その日の体調や様子を考慮しながら順番を決め、支援している。入浴剤を使用し気持ちが和むよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	光や音、温度や湿度に気を配り安眠出来る様に支援をしている。本人が休息の希望があれば意向に沿える様に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を所定の場所に置き理解するように支援をしている。症状や服薬変更など所定の用紙に記入し職員全員で共有出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が自然と手伝ってくれることが継続して出来る様見守りをしている。本人や家族から昔からの習慣を聞き、できる事・やりたい事を把握し支援している。		

ふれあいの里 グループホーム十勝の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来るだけ外に出掛けて気分転換になるよう努めている。又年に数回外出レクを企画し普段と違う活気ある時間を過ごせる様取り組んでいる。	気候が良くなると、天気の良い日は日常的に近隣の公園へ散歩に出かけたり、近くのスーパーへおやつを買いに出かけ気分転換を行っている。また、季節によりドライブで遠出し、花見や祭りが楽しめるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭の預かりはしていないが、外出や本人希望の買物がある場合は自己選択の機会を作っている。またはご家族との外出で協力を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な限り支援している。家族と相談し取り扱いを決めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は自然光が入り24時間空調換気・温度湿度計を置き適切な温度になる様連暖房の調節を行っている。又毎日掃除を行い清潔に過ごせるよう努めている。季節感を感じて頂ける様に、飾りつけにも配慮している。	食堂、居間等の共有空間は広く配置されており、自然光が入り明るく、落ち着いた雰囲気となっている。温湿度計で冬期間は湿度40%を目標に加湿器を使って管理されている。居間、廊下には行事の写真が貼られ、訪れた家族や皆で楽しめるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂では気の合った同士が並んで座る事が多く位置などに工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にベットやタンス等使い慣れた家具や写真・飾り物等思い出の品を置かれていて、居心地良く過ごせる様努めている。	各居室は床暖房でクローゼットが設置されている。利用者の使い慣れたベッドや単筒類の家具を配置し、家族の写真や絵を飾り付けそれぞれに居心地よく暮らせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には目立つ様に名前を貼り利用者が迷わず自分で行ける様取り組んでいる。廊下に手すりを設置しホーム内に段差を無くし安全に歩行や車椅子の自走を行えるよう取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700365		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム十勝の杜 2F		
所在地	中川郡幕別町札内豊町39番地の3		
自己評価作成日	平成28年1月10日	評価結果市町村受理日	平成28年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0194700365-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中に位置し、周囲には公園やスーパーがあり利用者様の散歩や買い物などの活動を行いやすい環境にあります。
小規模な生活の場として、集団ではなく個別の関わりを多く持てるように配慮しケアに取り組んでいます。
安心で心豊かな生活を提供する目的に、健康維持に欠かせない食事については、栄養バランス・季節感・個人の嗜好に配慮し提供しています。
行事や外食の際は、利用者様の希望を聞きながら企画しています。
協力医療機関による定期的な訪問看護と往診を受け、状態の変化にも適切な助言と診療で出来る限りホームでの暮らしを継続して頂ける様に支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える場所(各フロア)に掲示しており、きめ細かなケアをする様に心がけているが、職員で差が生じている時もある。方向性に迷う時は再度確認しながら取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内での清掃にも積極的に参加している。事業所の避難訓練時は近隣の方にも参加を募り、事業所への理解も得る様に努めている。幕別町の介護相談員やボランティア、高校実習生の受入れも行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告で認知症の症状についても説明しながら伝えている。入居申し込みや見学の際も相談内容によっては他の居宅サービスも紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ホームの状況報告や情報交換の場を設け、質問・要望を確認している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険事業所として必要な報告と相談の他に、日頃から相談、報告等を行ない協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行なっていない。利用者が自由に動ける環境にあり、見守りを中心に実践している。外部への研修参加や内部研修を実施し可能な限り現状維持していきたいと考えている。夜間帯は1人体制で勤務している為、出入口の施錠は行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待については研修などに参加して、注意を払い防止に努めている。言葉かけにも配慮しているが一部職員は把握し切れておらず雑な口調になっている時もある為、振り返る時間を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記制度利用の方については、係るべき部分で支援している。職員の中には、制度の理解に乏しい者もあり、今後も研修等で学ぶ機会を設け活用しながら支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込みの時点で不安や誤解のない説明を心掛け、書面と口頭で説明を行っている。入居後も同様に、確認し不安のないように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で質疑応答の時間を設けたり、面会時に状況報告し意見等何でも言って貰える関係づくりを心掛けている。意見・要望・苦情等は記録を作成しミーティング時に職員で確認している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンスや個人面談などを行い意見や提案を言いやすいようにしている。大人数の場だと意見が上がりにくい時もあり、日々の中で生まれる声を拾い上げ反映できる様に努め、早期に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	H27年12月より社員制度の再改正があり、面談し就労条件の確認後正職員に移行。十勝管内の3事業所のGHで兼務する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人としての職員教育制度により、役職者研修や段階別研修、目的別研修を実施している。その他勉強会を事業所で開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催の研修に可能な限り参加し、他GHとの交流の機会を設ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に情報を職員の観覧しやすい所に掲示し情報共有に努めている。本人が生活しやすいように、関係性の構築、他職員との情報交換を密にし、ケアに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の対応は管理者、計画作成が行う事が多く、職員が関係の構築までは至っていないが、対応に当たる際は、個々が情報を聞き出そうと努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族共に必要としている事を確認し、適切なサービスを提供し受ける事ができるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が安心して暮らせるように、出来る事への支援、関わり、生活の場の継続が出来るように努め、ただ居るのではなく、心に寄り添い支えるケアをしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関わりは、管理者、計画作成者が主に行なっているが、得た情報は記録や口頭で職員に伝え、周知するように努め、家族と本人が今後も良好な関係を築いていけるよう、行事への誘いや本人の訴えを代弁し、ホームへ足を運んでもらえる様にしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ行きたいと希望があった際は家族の協力を得ながら継続できる様に支援を行なっている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を良的に構築できるよう座席の変更や職員の仲介、独立しないように交流をもつよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居時に他施設の申込みを確認し、退去に繋がる事由があった場合には、家族と話し合い、本人や家族が納得できる方向性を示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中での訴えや、関わりの中で話した言葉や希望を把握できる様に努めている。意思表示が困難な方にはその方に合ったコミュニケーションを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が閲覧しやすい所に置き周知できるようにしている。本人らしい生活が継続出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	観察を怠らず、いつもと変わらない様子や何か変わった事などは記録に残し、その中でも継続性のある変化はケアカンファレンスにて討議しケアにあたっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のケアカンファレンス、ケアプラン更新の際のモニタリングなどを実施し、その都度、本人、家族の思い、日々の記録から本人の状況を把握し、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	重要な事から些細なことまで、記録することを職員間で周知、確認を徹底し、個々のサービス向上のために試行錯誤しながら、ケアにあたり介護計画見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族からの情報収集を怠らない様努めている。本人や家族が希望する場合には、協力医療機関にとどまらず、適切な医療を受ける支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が必要としている地域資源やボランティア、地域行事などを率先して活用するようにしているが、すべての利用者に満遍なく行き届いているという状況ではない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関での受診だが、馴染みのかかりつけ医がある場合には適切な医療が受けられる様その限りでなく、往診医との連携が出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、提携病院の訪問看護を受けており、必要な相談事項は記録や職員からの聞き取り、入居者の訴えから書面と口頭にて相談を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要となる情報は、個人のファイルに綴じて情報交換の際に活用している。早期退院に向け、入院中は面会をし体調の把握に努めている。また、入院中の変化や新しい情報は記録し、職員へ周知している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に係る指針を説明。入院や治療が必要になった時点でも、今後の方向性について話し合う時間を作っている。可能な限り、担当医師からの説明に同席している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、いつでも観覧できる場所に設置する他、普通救命救急講習の受講も可能な限り職員で参加している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練実施。日中や夜間を想定した訓練を行なっている。家族の他に町内会や地域の方々にも参加を募り、ホーム利用者の方々の実際の動きや対応を感じ取ってもらえる様努めている。災害時に備え、備蓄品を整備。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者と関わる際には、個々に合った言葉かけだけでなく、表情や反応に注意を払い、その人らしくられるように支援している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、その人に合った関わり方を行ない、信頼関係の構築に努めている。どの職員に対しても自分の意見を伝え、自己決定が出来るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険が無ければ本人の意向に沿った生活を送れる様に支援している。職員が手薄な時間帯に、職員の都合でケアにあたる場合も現状にある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添って、訪問美容の活用や маникュアのを使用している。また、季節感を損なわない様に、本人と話し衣服調整を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを聞き取り、行事食を計画している。また、準備の際も出来る事を見極め声掛けし片付け等、職員と一緒にこなしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立を基に調理している。食事量、水分量に関しては記録し状況把握できるようにしている。また、水分が足りない時などは本人が好きな物を提供し脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で口腔内の清潔保持ができる人は確認し、毎食後口腔ケアの声掛け、誘導をしている。研修にて技術や知識を身に付けるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自然排泄が出来るように、トイレでの排泄を促し、また、習慣を把握し、個々に合ったトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の間隔と形状を把握すると共に、その人の活動量や水分食事量の把握をしている。個々に合わせて腹部やマッサージに取り組み、必要時は医師に相談し下剤調整する場合もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて、気持ち良く入浴できるように声掛けしている。事前に聞き取り、入居者によっては曜日指定の希望もあり、個々に合わせた支援を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない様に、日中帯の観察と本人の生活習慣の把握に努めている。就寝時は寝具環境、室温、照明などに気を配り、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容、副作用などが把握できるように閲覧しやすい場所に薬情を置いている。職員によっては、すべてを把握し切れていない現実がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみや生活歴を把握し、趣味の支援、外出の機会を作るように心がけている。		

ふれあいの里 グループホーム十勝の杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お祭りへの参加やドライブなど、ホームで対応し外出する時もあれば、家族が観光地などに連れて行くなど、本人の希望に合わせた外出を行なっているが、入居者が行きたい時に行なえない場合もある。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭の預かりはしていない。家族の了承のもと、自己管理にて所持している入居者はいるが、外出機会を設けても、買い物で使用する事はほとんど見受けられない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話でのやり取りは自由に出来るようにし、希望があった際はホームの電話を使用できる様にしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	簡易的でわかりやすい家具配置に気を配り、気温の一定保持、太陽光などが不快にならない様にカーテンの使用を行なっている。また、殺風景にならない様に季節ごとの飾り付けや、飾り付けの作成などを行い、ホームを居心地のいい場所になるように工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓での席順やソファでの席順は気の合う利用者同士になるようにし、共有スペースでの生活を強要せず、独りになれるように配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室での使用品は基本、本人の物とし、配置も家族、本人と決めてもらっている。また、模様替えを必要となった時は、本人や家族と相談し行うようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が混乱しないよう、トイレなどには大きな文字で扉に貼ったり、混乱や不安が生じないよう、家具の配置などは極力変えない様にしている。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム十勝の杜

作成日：平成 28年 2月 25日

市町村受理日：平成 28年 2月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震対策、その他の災害対策等更なる体制構築	・現在の避難マニュアルを再検討し災害時の体制を整える	1、町内会へ現在設定している避難場所以外にも確保が可能か、その他協力頂ける内容の確認する 2、本社と協議し地震やその他災害時の詳細な内容を取り決め、マニュアル作成し直し職員へ周知する	12ヵ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。